

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-316	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
A double blind randomised comparison of chlordiazepoxide and lorazepam in alcohol withdrawal. クロルジアゼポキシドとロラゼパムのアルコール離脱における二重盲検ランダム化比較試験。		
執筆者		
Rajmohan V ¹ , Sushil K, Mohandas E.		
掲載誌		
Asian J Psychiatr. 2013 Oct;6(5):401-3.		
キーワード		
アルコール離脱、クロルジアゼポキシド、ロラゼパム		
要旨		
<p>目的： 二重盲検法でアルコール離脱でロラゼパムとクロルジアゼポキシドの効能を比較する。</p> <p>方法 研究は中毒離脱病棟へ連続的に入院した 108 人の患者を対象とした。インフォームドコンセントを得た包含基準に基づいて選択された後、2 つの群にランダム化された。クロルジアゼポキシドとロラゼパムの効能の比較試験を行った。最初と以降の離脱の経過の評価は、Clinical Institute Assessment for Alcohol-revised (CIWA-Ar)を用いた。離脱の率と総持続期間が、2 つの群間で比較された。</p> <p>結果 ロラゼパム群は、クロルジアゼポキシド群と比較して 48 時間の改善の率に関して有意差を示した (70.4% 対 54.8%;$p=0.000$)。離脱の総持続期間は、ロラゼパム群で有意に短かった (5.6 日 対 6.7 日;$p=0.001$)。</p> <p>結論 アルコール離脱の治療において、ロラゼパムは、離脱重症度の低下の速い率と離脱の総持続期間を少なくすることで、クロルジアゼポキシドより効果的である。</p>		